

## 体験コーナー進行例

高校

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 防災教育プロジェクト

コーナー	防災倉庫探検	
目標	校内の防災倉庫の場所を確認し、備蓄品を知る。	
スタッフ数	1名～（倉庫の鍵の管理のため、教員に倉庫の前で待機してもらう）	
準備物	手持ちのホワイトボード、ホワイトボードマーカー 時間調整用に、防災倉庫のものをいくつか中身がわかるよう箱から出しておく	
会場 平面図	集合：昇降口 話：倉庫前	
進行	1分	昇降口に集合 防災倉庫の場所を探して行くように指示する
	4分	・行く途中で、防災倉庫に入っていると思うものをあげてもらい、ホワイトボードに書く。 ・防災倉庫の前で集まり、なぜ、その物品が入っていると思ったか、理由を聞く。
	10分	「では、実際に見てみよう」、と声をかけ、防災倉庫の扉を開け、備蓄品を確認する。 できるだけ、生徒に倉庫に入ってもらい、中をみてもらう。 予想があたった物に○をし、なかったものはホワイトボードに書く。
	5分	備蓄品がなぜ必要なのか、解説する。 時間があれば、備蓄品を箱から出して使い方を実習する。
進行上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫の場所によって、もしくは知っているかによって倉庫到着までの時間が変わるので、実際の備蓄品の確認や被災地での例などの話をする材料を準備しておく。</li> <li>・ホワイトボードに書いたが、倉庫に入っていなかった物も否定せず、どのような場面で役立つかを一緒に考える。</li> <li>・被災地でボランティア体験をしてきた場合には、どのように備蓄品が役立ったかを伝える。</li> </ul>	

